

# 第二章活用事例

## 「直して つかう」 ― 二宮 尊徳のものがたり ―

小学校一・二年生版

「心あかるく」 p.40  
「きんぎょ」 p.45

### 【主題名】 物を大切に

第一学年及び第二学年 1-(1)

「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をしよう。」

### 【ねらい】 物や金銭を大切にしようとする心情を育てる。

《ねらいとする道徳的価値》「『一・二年生の時期の児童は、身の回りの整理ができなかったり、物を大切に扱えなかったりすることがあります。身の回りを整理することの気持ちよさや、物や金銭の大切さを実感することは、日々の生活を大切しようとする態度の育成につながっていきます。日常生活の様々な場面と関連付けて指導することで、児童が自発的に行動できるようにすることが大切です。』



「この写真の人を知っていますか。」

○二宮金次郎像の写真を提示し、金次郎は努力家で人助けをした立派な人物だったことを伝え、資料への興味をもたせましょう。

○教師が「直して つかう」を読み聞かせましょう。



「ぼろぼろになって捨てられたわらじを見て、金次郎はどのように思ったのでしょうか。」

○「もったいない」という金次郎の心の言葉に着目させましょう。

### 中心発問



「捨てたわらじをなおし続けながら、金次郎は、どのようなことを考えていたのでしょうか。」

○勤勉・努力や勤労などの別の道徳的価値に展開していかないように、物を大切にするという視点から考えさせましょう。

《評価》 物を大切にすることの意味に気付くことができたか。



「村の人たちに感謝されたとき、金次郎は、どのような気持ちだったのでしょうか。」

○「うれしく なりました」という部分に着目させて、金次郎はどのようなことがうれしかったのかを考えさせましょう。



「身の回りで、これからはもっと大切にしようと思つたものは何ですか。」

○身の回りの「もったいない」に気付かせたり、「物を大切にしよう」ということを具体的な行動を結び付けて考えさせたりしましょう。

○「心あかるく」 p.83  
「きんぎょ」 p.84

「できたかな。きんぎょの生活を たしかめて みよう」に記入をさせて、自分の生活を見つめ直させ、これからの生活で気を付けることを考えさせましょう。

### 板書例

直して つかう

― 二宮 尊徳のものがたり ―

二宮 尊徳像  
の写真

- どりよくをつづけたひとり
- りっぱなおとなになった。

ぼろぼろに なって すてられた わらじを みて  
金次郎は どのように おもったのでしょうか。

- このままですててしまっているのだろうか。
- なおせば、まだつかえそうだ。
- なおせば、またみんなにつかってもらえる。

わらじを見る  
金次郎の  
挿絵

ひろったわらじを なおしつつげながら 金次郎は どのような ことを かんがえて いたのでしょうか。

- またつかえるものになってよかった。
- 村の人たちにつかってもらえる。
- これでわらじがむだにならない。

わらじを作り続け  
る金次郎の挿絵

むらの ひとたちに かんしゃされたとき 金次郎は、どのような きもちだったのでしょうか。

- ものをたいせつにできてよかった。みんなもよろこんでくれている。
- これからも、ものをたいせつにしていこう。
- みんなにも、ものたいせつさがわかってもらえてうれしい。

みのまわりで、これからは もっと たいせつに していこうと おもう ものは なんですか。

- いらなくなった かみは、すてずに かいしゅうに だす。
- きられなくなった ふくは、だれかに あげたり、リサイクルの おみせに だしたり する。
- かばんを なげたり ふりまわしたり しない。
- としょじつの ほんを おったり よこしたり しないように きを つける。

### 《評価》

物を大切にしようとする気持ちをもつことができたか。

終 末

展 開

導 入